

UP CYCLE SALON 白山倉庫

— 記憶を引き継ぐモノの倉庫を、地域の核となるアップサイクルな場へ —

『UP CYCLE SALON 白山倉庫』は、東京都文京区白山の住宅街に建つ築58年の倉庫をリノベーションした、サロンと5室のシェアオフィスからなる複合スペースである。

このプロジェクトを企画する文京建築会ユースは、地域で長年親しまれてきた銭湯や旅館などの建築が取り壊されてしまうとき、建築の実測や写真記録を行い、イベントや展示会、出版物を通してその魅力や価値を発信してきた。そして同時に、そこで引き取った建築の一部分や物品をこの白山倉庫へ今まで収蔵してきた。しかし、収蔵するばかりでホコリをかぶってしまったのでは、もったいない。なにより地域の拠点として倉庫を活用して欲しいというオーナーの想いも相まって、倉庫を開放するプログラムを企画した。

不要になったものや役に立たないものに新たな価値を付けて再利用するという意味がある「Upcycle」。まさに、『UP CYCLE SALON 白山倉庫』が目指すものは、地域で大切にされてきたモノを、多くの人に触れられる形でストック活用すること。そして、地域の記憶をモノを介して引き継ぎ、そこに人が集い交流する中で、この場に新たな価値が生み出されていくことである。

— モノと人が交錯する大きな倉庫空間と、改変可能な小さな設え —

文京区小石川・白山エリアは、印刷・製本業が盛んに行われており、この場所も印刷関係の会社の倉庫であった。もとの倉庫は、部屋で区切られていたため、不要な壁や天井を解体し、既存の鉄骨トラスを活かした大空間のサロンを設え、残ったスペースに一部壁を付け足して5部屋のシェアオフィスを計画した。サロンは、シェアオフィスの共用スペースでありつつ、時間貸しで一般の方もイベントや会議などで使えるレンタルスペースとなっている。

既存倉庫の部分解体時に生じた痕跡は、改修の履歴を残すために手を付けずにそのままとした。一方で、新設した壁や大きな円卓などは、既存の素材にはない光沢や透明感のある仕上げで異化しながら、既存の空間や置かれているモノを写し込み、空間全体を馴染ませるように意図した。

サロンの設えには、地域で親しまれてきた銭湯や旅館、喫茶店などのモノを随所に活用した。飾るだけに留まらず、銭湯の扉をオフィスの入口扉に再利用したり、銭湯の脱衣ロッカーをオフィス利用者のための個人ロッカーにするなど、新たな役目を担わせている。ただ、白山倉庫へ収蔵されるモノは随時更新されていく。そして、そのモノたちはどれも個性的だ。銭湯の木製建具、傘置き、ドライヤーチェア、ケロリン桶、ボイラーの蓋、旅館の欄間、座卓、金庫、お膳、衣桁、レトロな喫茶店の椅子や什器など、年代も用途もスタイルもバラバラだ。

そこで、Mosaic Designとシェアオフィスの一室に入居した設計事務所のJAMZAが主体となり、日ごろからこれらのモノと共存していく小さな設えを自ら作りながら補っている。銅箔テープ、エポキシ樹脂、ポリカ波板、足場板、柿渋、ブリキ板など、容易に手に入る素材を駆使し、即物的に応答しながら日々空間をつくりかえている。

モノが仕舞われ続けた白山倉庫は、サロンとシェアオフィスの運用が始まり、人が訪れる場となった。今後、定期的なオープンデーや展示会等も計画しており、また新たな関係性が生まれていく。私たちはここ白山倉庫で、モノ・人が交錯していくアップサイクルな場をつくり続けていきたいと思う。

(文：JAMZA／猪又直己+長谷川駿)

■建築概要

名称：UP CYCLE SALON 白山倉庫

住所：東京都文京区白山2-19-9 2F

延床：162㎡（サロン：70㎡、シェアオフィス：各7㎡～22㎡・計5室）

企画・運営：文京建築会ユース+Mosaic Design+ツツミエミコ+JAMZA

設計：Mosaic Design+JAMZA

ロゴデザイン：hokkyoku 藤井北斗

施工：ダブルボックス、JAMZA